

埋文やまがた



2014年1月31日
第52号



東根市 ^{はったん}八反遺跡第3次 古銭出土状況
(詳しくは本文7ページへ)



公益財団法人 山形県埋蔵文化財センター

YAMAGATA PREFECTURAL CENTER FOR ARCHAEOLOGICAL RESEARCH

〒999-3246 山形県上市市中山字壁屋敷5608 TEL 023-672-5301(代) FAX 023-672-5586

ホームページ： <http://www.yamagatamaibun.or.jp>

メールアドレス： yac@yamagatamaibun.or.jp

平成25年度 文化財普及啓発事業

今年度当センターでは、文化財普及啓発事業の一環として、「発掘調査説明会」、「出前授業」、「外部展示」、「職場体験」、「センター見学・遺跡見学」、「体験学習」、「山形県埋蔵文化財センター参観デー-やまがた埋文まつり2013-」、「発掘調査速報会・設立20周年記念講演会」等を実施しました。

(平成26年1月現在)

発掘調査説明会

	市町村	遺跡名	遺跡種別	開催日
1	村山市	道出遺跡第1次・第2次	散布地	7月26日
2	川西町	元宿北遺跡	集落跡	8月10日
3	東根市	八反遺跡第3次	集落跡・墓跡	10月5日
4	村山市	松橋遺跡第2次	集落跡	10月5日
5	村山市	蟬田遺跡第2次	集落跡	10月5日
6	山形市	山形城三の丸跡第13次	集落跡・城館跡	10月21日

出前授業

地区	実施校	対象	期日
庄内	1 酒田市立田沢小学校	第6学年	6月4日
	2 酒田市立浜田小学校	第6学年	6月5日
	3 鶴岡市立五十川小学校	第5・6学年	6月27日
	4 三川町立東郷小学校	第6学年	7月8日
	5 鶴岡市立温海小学校	第6学年	7月16日
	6 最上町立富沢小学校	第6学年	6月26日
村山	7 東根市立東根中部小学校	第6学年	6月3日
	8 大石町立大石田北小学校	第5・6学年	6月7日
	9 山形市立出羽小学校	第6学年	6月10日
	10 東根市立第一中学校	第1学年	6月11日
	11 山形市立南山形小学校	第6学年	6月12日
	12 山形市立高瀬小学校	第6学年	6月13日
	13 天童市立荒谷小学校	第6学年	6月13日
	14 山形市立東小学校	第6学年	6月14日
	15 山形市立第一小学校	第6学年	6月19日
	16 天童市立長岡小学校	第6学年	6月21日
	17 村山市立戸沢小学校	第6学年	6月25日
	18 山形市立みはらしの丘小学校	第6学年	7月7日
	19 上山市立西郷第二小学校	第5・6学年	7月20日
20 朝日町立西五百川小学校	第6学年	7月22日	
置賜	21 米沢市立興譲小学校	第6学年	6月6日
	22 米沢市立窪田小学校	第6学年	6月20日
	23 米沢市立関小学校	第3～6学年	7月9日

センター見学・遺跡見学・施設利用

	団体名	期日
1	山形県立山形聾学校6年生	4月30日
2	上山市立南小学校5年生	5月1日
3	米沢市教育委員会	5月16日
4	天童市教育委員会発掘現場研修〈道出遺跡〉	5月16日～8月10日
5	上山市教育委員会 初任者・10年経験者研修会	6月13日
6	山形市立第六小学校第4学年PTA	6月14日
7	山形市小学校教育研究会生活科・総合部会 〈山形城三の丸跡〉	6月26日
8	上山市身体障がい者福祉協会女性部会	6月28日
9	上山市小中教育研究会地域学習部会	7月29日
10	上山市中山地区公民館	8月9日
11	山形県立米沢興譲館高等学校1年生	8月9日
12	村山市立西郷小学校6年生〈八反遺跡〉	10月3日
13	上山市南部地区民生児童委員協議会	10月7日
14	上山市立南小学校2年生	10月8・9日
15	上山市小中教育研究会生活科・総合部会	11月13日
16	寒河江市教育委員会・寒河江市文化財保護委員	12月3日
17	作野遺跡発掘作業員	12月5日

外部展示

うきたむ風土記の丘考古資料館 「古墳時代の大集落」 - 矢馳A遺跡・川前2遺跡・鎌倉上遺跡 - 会期：6月8日～9月22日
ゆめりあ ストリートギャラリー 「最上のあけぼの～山形北部の縄文の遺跡～」 - 中川原C遺跡 - 会期：9月2日～9月30日
遊学館 1階ギャラリー 「発掘 山形城三の丸～最上義光没後400年～」 - 山形城三の丸跡 - 会期：11月1日～11月15日
山形県身体障がい者保養所 東紅苑 「奈良・平安時代のくらし」 - 三条遺跡・今塚遺跡 - 会期：1月15日～2月16日

職場体験

	団体名	期日
1	上山市内中学校	4日間

体験学習

	団体名	期日
1	大泉地区文化財愛護会	9月19日
2	朝日少年自然の家 朝日ときどき広場「朝少丸ごと縄文村」	9月22日
3	放送大学「山形の縄文フォーラム」	2月16日(予定)

センター主催研修・講座等

	講座名	期日
1	第1回市町村文化財担当者研修会	5月10日
2	第2回市町村文化財担当者研修会	6月21日
3	ふるさと考古学講座(1) 「遺跡を掘ってみよう!」	7月21日
4	ふるさと考古学講座(2)-① 特別展示『縄文時代の上山』	7月27日～9月1日
5	ふるさと考古学講座(2)-② 公開講座『上山の縄文遺跡から分かること』	7月28日
6	夏休み子どもミュージアム 「どうぐのむか～し話」	7月28日～8月26日
7	ふるさと考古学講座(3) 「縄文もの作り広場」	8月11日
8	埋蔵文化財センター参観デー 「埋文祭り2013」	10月6日
9	ふるさと考古学講座(4) 「バスで遺跡を見に行こう!」	10月19日
10	平成25年度発掘調査速報会 センター設立20周年記念講演会	12月15日



埋文センター参観デー 平成25年10月6日(日)

埋文祭り2013



暑い「要望」にお応えして復活の『弓矢体験』。大人もけっこうはまってしまうようです。



定番の人気メニュー『まが玉作り』。手を真っ白にして自分だけの宝物を作ります。今年は管玉ストラップ作りも加わりました。

中山に移転して初の参観デーでしたので、お客様の入り方が心配されましたが、おかげさまで、400名以上の方に考古学を楽しんでいただくことができました。写真でご紹介したエンターテインメント系だけでなく、正統派の整理作業体験の各種コーナーも好評でした。(次ページに関連記事)



こちらも人気の『記念写真コーナー』。好きな衣装でパチリ。

ふるさと考古学講座(4) 平成25年10月19日(土)



上山市 中山城跡

物見台の石垣がしっかりと残っていますが、木の根に侵食されて、崩れかかっている様子が見て取れます。文化財の保護について、考えさせられる事例です。



山形市 長谷堂城跡

長谷堂城の城山の山頂は、現在は静かな公園になっており、ここ本丸跡からは、山形盆地が一望できます。合戦当時も、山形城がはっきりと見えていたことでしょう。つわものどもはどんな思いで戦って、そして散っていったのでしょうか……合掌。

現在発掘調査中の現場はもちろん、本丸の石垣復元工事の様子も内側から見せていただきました。まだ一般人は立ち入り禁止です。



山形市 山形城本丸跡

最上義光公没後400年をにらめ、今年のテーマは『戦国のやまがた・城めぐり』と題し、中・近世の城館跡を巡ってみました。地元の山城【中山城】、最上家の居城だった平城の【山形城】、直江兼続でおなじみ長谷堂の合戦で有名な【長谷堂城】と、バラエティに富んだ構成で、体力作りにもなった？一日でした。遠くは仙台や酒田からの参加もあり、毎年好評をいただいている企画です。

山形県埋蔵文 設立 20

平成25年度発掘調査速報会

会場：村山市総合文化複合施設 しょうよう 飯葉プラザ
期 日：平成25年12月15日(日)

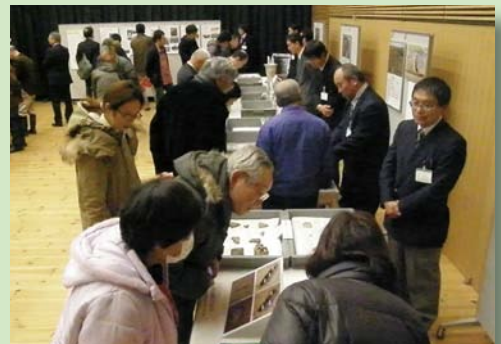


専務理事による挨拶



今年は3遺跡による発表でした。
(要旨はP6以降「発掘調査トピックス」を参照)

平成25年度の発掘は7遺跡で行われました。速報会当日は朝から大雪であいにくの天気でしたが、大勢の熱心なお客様に来ていただくことができました。特に記念講演については、時節柄関心も高く、皆さん興味深く聴いておられたようで、講演後にはいくつかの質問も出されました。



出土遺物の展示に際し、発掘調査担当者による解説がありました。

ただいま計画進行中

20周年記念事業の一環として、来年度は巡回の企画展示を予定しています。通常の企画展示に加え、県内数箇所において、センター20年間の発掘の成果を振り返ることができるような展示を、と考えております。



埋文センター 周年記念



記念講演

講師：山形大学名誉教授 あこじまいさお 阿子島 功氏
テーマ：『防災と災害考古学』

1995年の阪神淡路大震災、そして2011年の東日本大震災以来、がぜん注目を浴びている災害考古学ですが、以前から永年にわたり遺跡の災害痕跡に注目して研究をしてこられた、阿子島功先生を講師にお迎えして、お話しをしていただきました。

これまでの発掘調査から、県内でも様々な遺跡で、津波・憤砂・地盤流動化・断層・洪水・土石流等の災害の痕跡が確認されていることを、豊富な事例を元に紹介して下さいました。

そして、それらをよく観察し分析することで、被災当時の状況が理解・推測できること。そこから、今を生きる私たちが何を学び、どう対処していくかを考え、そして実践していくことが暮らしの安全につながるであろうことを、わかりやすくお話しして下さいました。



センター参観デー関連



20年のあゆみを年表や写真で振り返りました。



特別展示

今年の展示は20周年を記念して、センター設立以降のものを紹介してみました。目玉は、今年八反遺跡で発掘されたばかりの、推定一万枚にも及ぶ古銭です。
(表紙・P7 参照)

まっはし

松橋遺跡 第2次

—溝に区画された集落跡—

村山市

松橋遺跡は、村山市の東側に位置し、村山市役所の北西約500mの名取地区松橋集落の自然堤防に立地しています。

今回の調査は、平成22年度に続く第2次調査になります。

調査では、掘立柱建物跡、溝跡、井戸跡、土坑などが見付き、土師器^{はじき}、須恵器^{すえき}、石製品、陶磁器などが出土しました。

建物跡は2間×3間の南北軸のもの1棟が確認されていますが、調査区中央部に重複した遺構の集中区域があり、ここにも、複数の建物跡の存在が考えられます。

溝跡は東西と南北方向に8条程見付けました。区画施設と考えられる調査区を直角に曲がる幅約1.5m、深さ約70cmを測る溝の他、第1・2次調査区を東西に横断するものもあります。

井戸跡は、10基確認されました。全て素掘りの井戸で、播鉢状^{すりばち}と寸胴型^{ずんどう}の2つの形態がみられ、構築時期の違いが考えられます。1・2次調査合わせて井戸跡は22基見付けています。

遺物は、平安時代の土師器、須恵器の坏^{つぎ}、有台^{かめ}、甕などが多く出土しましたが、大半が破片で



開口部の直径が約2.5m、深さ約1.9mを測る播鉢状の井戸跡です。覆土から石鉢が出土しました。

保存状態は良くありません。底部の切り離し痕や器形などから9～10世紀の所産と思われます。その他、石鉢^{すずり}、硯^{かんじょう}、砥石^{どすい}、管状土錘や少量ですが中近世の陶磁器なども出土しました。

遺跡は平安時代と中世にわたる集落跡と考えられますが、区画施設とも思われる溝跡や建物群を推測させる遺構の集中区域などは、館跡の可能性も窺えます。
(氏家信行)



調査区的全景写真です。井戸跡や溝跡、土坑、柱穴など、多くの遺構が調査区全体に分布しています。特に、中央部に遺構が密集しており、複数の建物跡があると思われます。

八反遺跡は最上川右岸の自然堤防上に位置しています。現在は果樹園や畑が広がり、周辺の水田より一段高くなっています。遺跡の周辺には、最上川の旧河道の痕跡が低地や水田として残されており、一帯が最上川の氾濫原だったことがわかります。

調査区を南北に分割し、平成23年度は南調査区の第1面、平成24年度は南調査区の第2・3面、北調査区の第1面、今年度は北調査区の第2面の調査を実施しました。

北調査区の第2面では、ほぼ全面から溝や柱穴、井戸などが見つかり、中世前半の集落が広がっていることがわかりました。東側の農道に沿った部分は遺構の分布が希薄になります。試掘調査の結果等から、この辺りが自然堤防の縁辺部であったと考えられます。

調査区の中心部には、南北10m、東西20mの範囲で浅い溝に囲まれた遺構が見つかりました（左写真青色部）。溝の内側は整地の痕跡があり、石

が直線的に配置されていました。その特殊な構造から、宗教的な施設の可能性があります。

この溝の北側約20mの地点から、曲物に入った古銭が出土しました（写真右）。約100枚の古銭をつなげた緡がほぼ完全な状態で残っています。最上段で16本の緡が確認でき、曲物の大きさから約10,000枚の古銭が入っていると推定できます。大半が中国銭と考えられます。

その他、^{いたび}板碑、^{ごうろ}五輪塔、^{けびょう}古瀬戸香炉・花瓶等、宗教的な遺物が多く出土しています。

八反遺跡の北半に展開する集落は、鎌倉時代を中心とした宗教的な性格の強い集落と考えられます。その集落は調査区全面を覆う砂礫層の存在等から、洪水によって廃絶した可能性があります。砂礫層の上面から火葬遺構が確認されていることから、集落の廃絶後、この地は葬送の場となったと考えられます。その後江戸時代以降は畑地や水田となり、現在に至ります。（高桑 登）



調査区の全景です。柱穴、溝、井戸などが見つかり、赤丸の箇所から古銭が出土しました。



古銭は直径30cm、高さ15cmの曲物に納められています。上部は^{おしき}折敷で蓋をされていました。（表紙参照）

前号 **考古学クイズ**の答え ③ 山形城は三重の堀で囲まれていました。現在の霞城公園のお堀は、二の丸の堀跡になります。（P8に関連記事）

山形城三の丸跡の第13次調査は、三の丸跡北側の国道112号に沿った区域を、市街地の区画毎に三つの調査区（F～H区）に分けて行いました。

遺構が確認出来る土の面からは、奈良・平安時代から近世・近代まで、各時代の遺構が検出され、人々がこの地に長い期間にわたって暮らしてきた様子がわかりました。

遺構が最も多く検出されたのは、昭和橋の東側のG区で、奈良・平安時代の^{たてあなじゆうきよ}竪穴住居跡が6棟、近世の井戸跡が2基、その他に近世～近代にかけての土坑や溝跡が検出されました。竪穴住居跡は一辺が4～6mの方形で、深さが10～30cm程度と浅く、主軸は4方位を向いており、いずれも出土土器から8～9世紀代の住居跡と考えられています。近世の土坑では、捨てられた瓦がまとまって出土した土坑が2基検出されました。瓦の文様から18世紀初頭（藩主堀田氏頃）の瓦とみられ、建物の改修などで廃棄されたと考えられます。

遺物としては、古墳時代の土師器や奈良・平安時代の土師器・須恵器、近世陶磁器類が出土しています。中には、16世紀末～17世紀初め頃に佐賀県の唐津で作られた陶器など、最上氏の時代に関



多くの遺構が確認されたG区。奈良・平安時代の住居跡が6棟検出されました。

係した遺物も含まれています。

江戸時代には武家屋敷となっていた一帯は、古代から既にある程度の規模の集落が存在しており、そうした集落を基盤に城下町が形成され、それが近代の山形市街地につながったと考えられます。現在の県都である山形市の中心地には、古代から連綿と続く人々の生活の跡が残っています。

（小林圭一）



G区で検出された奈良時代（8世紀）の竪穴住居跡で、写真の上方（北側）にカマドが検出されました。



G区で検出された瓦を廃棄した土坑で、瓦の特徴から18世紀初頭のもものと判断されます。

「埋文やまがた」の購読について

広報誌「埋文やまがた」購読ご希望の方は、当センターまで電話にてお問い合わせ下さい。なお、郵送料はご負担いただけます。

電話 023(672)5301(代表)

編集後記

八反遺跡で、多量の古銭が一括して見つかりました。いったい誰が、何のために……。これから検証していくこととなりますが、果たして謎は解けるのでしょうか。わくわくドキドキ、これだから考古学はやめられない!?